



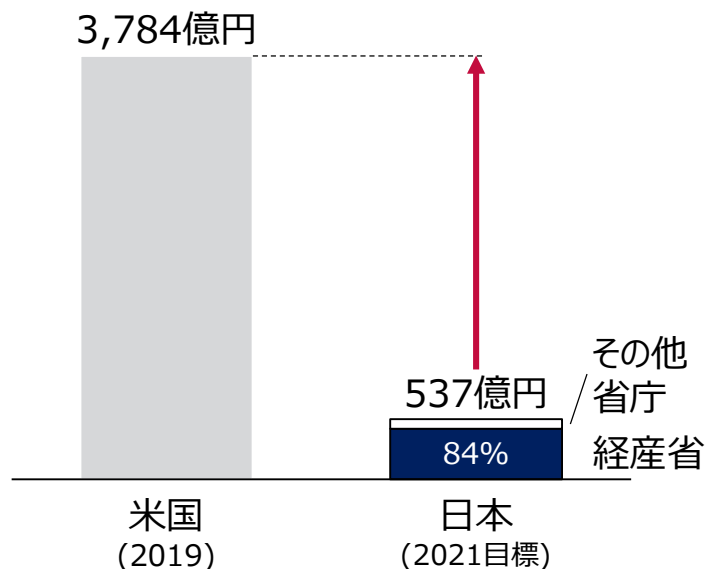
スタートアップ企業の 公共調達促進について

経済産業省 産業創造課 新規事業推進室
2022年12月

スタートアップの公共調達拡大と随意契約の意義

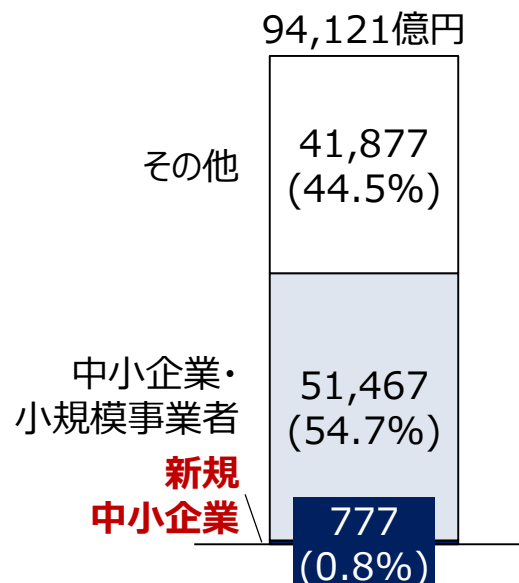
- スタートアップ企業が大きく成長するためにも、政府・地方自治体が主導して、スタートアップの提供する製品・サービスの市場・需要を創出していくことが重要。
- 政府がリスクを負い、既存の技術開発の枠組みを崩してまで、スタートアップと連携して技術開発を行うインセンティブが小さく、スタートアップからの調達が進んでいない。
- 今までも、政府の調達における入札参加資格の特例（上位の入札にSBIR、J-startup等が参加できる）などの措置を行ってきたが、スタートアップが有する独自の高度な新技術を、政府の調達ニーズに合わせ、随意契約を可能とするなど、柔軟な調達を行う仕組みも重要。

日米のSBIRの支出額



*SBIR : Small Business Innovation Research

日本の官公需総実績額



スタートアップとの随意契約の拡充について

規制改革実施計画(令和4年6月7日 閣議決定) (p.30)

5. 新技術・製品開発を促進するための政府調達手法の整備

経済産業省及び内閣府（C S T I）は、財務省と連携しながら、政府調達において、スタートアップなどによる新技術・製品の開発を促進するべく、中小企業技術革新制度（S B I R）における研究開発成果の調達手法と同様の仕組みでの随意契約を高度な新技術を持った J-Startup 選定企業等との間でも可能とすることについて、検討を開始し、結論を得る。

新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ（令和4年6月7日）

フォローアップ (p.21)

スタートアップの参加を容易にする観点から、入札参加資格など政府 調達手続等を見直すとともに、公共調達において、中小企業技術革新 制度（SBIR）における研究開発成果の調達手法と同様の仕組みでの随意契約を高度な新技術を持った J-Startup 選定企業等との間でも可能 とすることを検討し、結論を得る。

令和4年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針（令和4年8月26日 閣議決定）

④ 内閣府、経済産業省等は、公共調達において、中小企業技術革新制度（S B I R）における研究開発成果の調達手法と同様の仕組みによる随意契約を、高度な新技術を持った J-Startup選定企業等との間でも可能とすることを検討し、結論を得る。

高度な新技術を持ったJ-Startup企業の選定方法

トップベンチャーキャピタリスト、アクセラレーター、大企業のイノベーション担当、大学・研究機関関係者等から新規性・優位性のある企業として推薦を受けた後、第三者確認のプロセスを経て選定された企業に対して、有識者による外部審査を追加で行うことで、高度な新技術力を有する企業を選定する。（詳細は検討中）

① 推薦・② 集計プロセス

推薦委員
からの
推薦
(5社ずつ)

推薦基準

グローバル市場で
急成長し、日本の
イノベーションを
牽引する可能性を
持つスタートアップ

推薦の視点

新規性、優位性、
経営理念、
成長性、国際性、
社会課題への対応
等

・推薦委員
による重み
づけ

・政府表
彰・採択実
績

等を踏まえ
集計を行
い
絞り込み

③ 第三者確認

予備審査
による
第三者チェック
プロセス

(選定プロセスの進め方
等について審査)
(学識経験者や弁護士
等で構成)

一次選定

経済産業省・
事務局により
「J-Startup」
として選定

J-Startup

④ 外部審査

高度な新技術力
に関する
追加審査
プロセス

各分野における
有識者等で構成

最終選定

経済産業省・
事務局により
「高度な新技
術を持った
J-Startup」
として選定

AIメディカルサービス

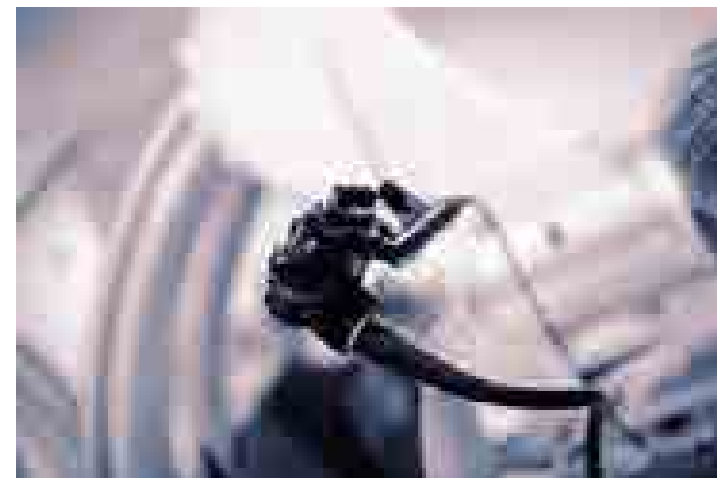
事業概要

- 内視鏡に特化した画像診断支援AIの開発。
- 臨床医が「病変見落とし」「大量の二重チェック」といった現場の悩みを解決するために創業。



独自性・高度な技術力

- 日本の軟性内視鏡は機器シェアが世界の98%で専門医の技量も世界一。質量ともに世界最高水準のデータを用いて世界で初めてピロリ胃炎鑑別AI、胃癌検出AI、食道がん検出AIの研究開発に成功。
- 厚生労働省と連携し、国立病院にて導入することなどが考えられる。既に、東大病院、慶大病院、がん研有明などと共同研究を実施し、AI画像診断の精度を向上。
- 大腸がんの内視鏡画像AIは複数のグループによって研究開発が行われているが、胃がんや食道がんの検出、特にリアルタイムで用いる技術の開発に成功しているところはあまり例がなく、世界的な学会でもたびたび表彰を受賞。



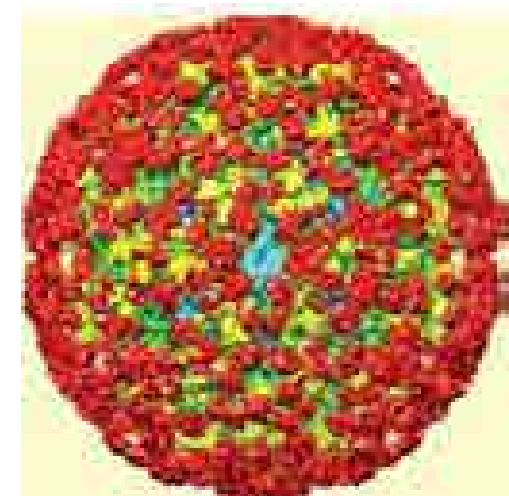
VLPセラピューティクス・ジャパン

事業概要

- ウイルス様粒子（VLP）と特殊な技術「自己増殖RNA（レプリコン）技術」を使用し、マラリア、デングなどの感染症ワクチンや、がんの治療用ワクチンなど新薬を開発。

独自性・高度な技術力

- VLPワクチンは、ウイルスの遺伝子がないため、感染はせずに免疫反応だけを引き起こす点において、従来技術に比べて安全かつ圧倒的に少量で高い効果を得られる（革新的な研究を表彰するNIHの最高賞「ディレクターズアワード」受賞）。
- 厚生労働省における感染症ワクチンの開発に対するサービス提供などが考えられる。
- 最高研究開発責任者の赤畑氏は、チクングンや熱ワクチンの研究・開発を手掛けたのち、VLPセラピューティクスを立ち上げマラリアやデング熱、がん、新型コロナウイルス感染症のワクチン開発に携わっている。



Synspective

事業概要

- 独自の小型SAR衛星により高頻度観測を可能にするコンステレーション（衛星群）を構築し、生成データとAIを用いた解析ソリューションを提供。

独自性・高度な技術力

- 世界的に見ても自社で小型SAR衛星を保有してソリューションを提供する会社は他にない。独自の衛星を保有することで、常にユーザー視点のソリューション提供が出来ることが強み。
- 国交省・内閣府（防災本部）・自衛隊などで、自然災害への対処、大規模な都市開発やインフラ開発に対するサービス提供などが考えられる。
- 地盤の変動を監視（モニタリング）し、広域な地表面の変動量をmm単位で検出し時系列で表示することが可能。同サービスによる陥没の可能性箇所を特定する陥没領域抽出機能（特許出願済：出願番号PCT/JP2021/003312） もリリース。



- ◆ 政府としてスタートアップを育成する方針を踏まえ、官公需においてもどのような貢献が可能か検討することとし、「令和４年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針」に以下の内容を追記。

スタートアップを含む新規中小企業者の受注機会の増大に向け方策の検討を進める。

- ① 各府省等の調達の実態を確認し、スタートアップからの調達が特に見込まれる分野について検証
- ② 国等の調達において、スタートアップが提供可能な新技術及び新サービスに関する調査を行い、各府省等に情報提供を行うことを検討
- ③ 入札参加資格その他の政府調達手続等を見直すことを検討
- ④ 公共調達において高度な新技術を持ったJ-Startup選定企業等との間での随意契約が可能となるよう検討

(参考) SBIRの抜本拡充

令和4年度補正予算(案)
内閣府 2,060億円等

① 施策の目的

スタートアップを育成する際、公共調達の活用が重要であり、公共調達を見据えた技術開発支援であるSBIR制度(Small Business Innovation Research)に基づく「指定補助金等」の対象・規模を抜本的に拡充。

② 施策の概要

ビジネスアイデアのF/S調査段階(「フェーズ1」)、実用化に向けた研究開発段階(「フェーズ2」)の支援の拡充に加え、新たに先端技術分野における大規模技術開発・実証段階(「フェーズ3」)も支援対象に追加する。

③ 施策の具体的内容

